



請戸漁港から
マリナーパークを臨む



高瀬川



津波被災地の将来

津波被災地では、復興計画（第一次）に基づき、共同墓地の整備、防災集団移転、津波被災地域の土地利用、請戸漁港の復旧などの取り組みが、復興まちづくりと一体的に進められています。詳しくは「浪江町復興計画（第一次）」および「復興まちづくり計画」をご覧ください（浪江町役場ウェブサイトからもダウンロードできます）。

- 共同墓地の整備……平成26年度中の完成を目指します。
- 防災集団移転……高台への移転を進め、移転先で宅地造成や復興公営住宅を整備します。住宅等の建築物を制限する「災害危険区域」の指定は本年2月に告示されました。今後、集団的移転を促進するための移転促進区域の設定を行います。
- 津波被災地域の土地利用……海岸堤防から約200メートルの範囲は、福島県が海岸防災林の整備を予定しています。請戸漁港の後背地は水産業施設用地の確保を検討します。浜街道（県道391号広野小高線）の東側には、災害廃棄物仮置場と仮設処理施設を設置し、平成26年度中に保管・処理を始めます（処理終了後これら施設は解体され、跡地には災害記念公園などの整備を進めます）。浜街道西側の農地では太陽光発電事業を優先的に検討します。
- 請戸漁港……昨年度から防波堤の復旧工事に着手したほか、漁港施設の原型復旧は平成27年度中の完了を目指しています。

◇請戸小学校の黒板に書かれたメッセージ

海岸から200mの距離にある浪江町立請戸小学校は、地震と津波で壊滅的な被害を受けましたが、児童たちは教職員の適切な誘導により全員無事に避難することができました。その後校舎には、請戸地区の行方不明者の捜索やがれきの片づけなどを行う自衛隊・警察・消防の方々が立ち寄り、教室の黒板に思いを書き綴りました。その黒板は、貴重な記録としてレプリカ



という形で保存されることになり、浪江町役場二本松事務所のロビーに展示されています。

「寄贈者」東京日本橋ロータリークラブ、東京渋谷ロータリークラブ

3 東日本大震災 3周年を迎えて

追悼式・行方不明者一斉捜索

3月11日、浪江町高瀬の如水典礼さくらホールにて、東日本大震災3周年追悼式・慰霊祭が行われました。昨年までの追悼式は二本松市内で行われていましたが、昨年4月に避難区域が見直され、居住制限／避難指示解除準備の両区域で日中の出入りが自由になったことから、今回初めて町内での実施となったものです。

追悼式では馬場有町長および来賓の方々が追悼の辞を、また遺族代表として本居春江さんがお言葉を述べられました。遺族や来賓ら約180人が出席して震災の犠牲者の冥福を祈りました。

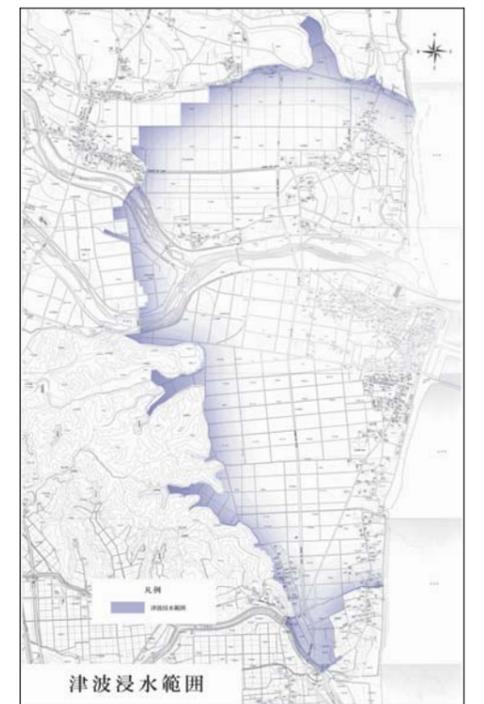
また同日は、震災から3年の節目を迎えるにあたり、町としての行方不明者一斉捜索も実施されました。請戸・棚塩・中浜の3カ所における捜索には、遺族や関係者、議員、町職員、消防団員など約160名が参加しました。



あらためて振り返る、浪江町の地震・津波被害

東日本大震災で浪江町は、震度6強の揺れに続き、15mを超える津波に襲われ、約6平方キロメートルにわたって浸水しました。

棚塩、請戸、中浜、両竹、さらに北幾世橋、幾世橋の一部にかかる浸水地域には、約600世帯2,000人余が暮らしていました。地震と津波による死者は149名（うち津波148名）、さらに33名が今もなお行方不明であり、流出家屋は約600戸となっています。



◇無念の避難

3月11日夕刻、津波がひいた後の地域で町民や消防、警察による救助活動が始まりました。この時点では、まだがれきの下から助けを求める声も聞こえていたといいますが、まもなく日没を迎え、二次災害を避けるため活動は一度中断されました。

「明日必ず助けにくるからと誓って、私たちはやむなくその場を離れました。ところが翌朝5時44分、福島第一原発半径10キロ圏内住民に避難指示が出されます。沿岸部の町民

は、文字通り着の身着のままの避難を余儀なくされました。助かったかもしれない生命を助けることができなかった。そのことが悔しく、無念です。」

（浪江町消防団訓練分団長／高野仁久さん）

福島第一原発事故の影響で犠牲者の捜索や収容が遅れ、計り知れない精神的苦痛を味わった遺族・関係者の皆さん。東日本大震災浪江町遺族会が東電に慰謝料を求めた裁判外紛争解決手続き（ADR）は、昨年10月に和解に至っています。